

平成 25 年度の取組方針(案)

1. 中小製造業の支援

【現状】・23年度に府開発補助金採択を支援した企業から、再度協力要請が来ている。訪問件数が目標の2割程度にとどまっている。

【今後】・4～7月に募集が集中する国・府等の「研究開発補助金」や「展示会出展」などの情報を持って、各制度にはまりそうな中小製造業の企業（とくに事前に事業内容を把握している企業）を訪問し、企業の具体的な行動を引き起こす。

- ・8月以降は、市の支援施策や公的融資制度などの情報をたずさえて訪問し、企業の事業内容や抱える課題を把握しつつ、支援制度の紹介や老朽化した社屋の建て替え問題への対応などを行う（国等の公募事業を紹介すべき企業の発見にもつなげる）。

2. ビジネス交流サロン

【現状】・金型・自動車部品関連企業の参加頻度が高い（10人程度）。

【今後】・市内企業の訪問やこれまでの交流サロンの実施から得られているキーワードは、「金型・自動車部品産業」、「新分野への進出」、「技術開発、研究開発」、「効果的な営業方法」（展示会出展やホームページの充実など）。

- ・これらのテーマでの開催機会を増やすとともに、金型・自動車部品など特定分野のテーマの時は市内外から関連企業の集積を図る。

3. プロジェクト創出会議

【現状】・同会議は回数を重ねるごとにプロジェクトの実施報告、進捗報告、参加の呼びかけなどが増えてきており、キーマン同士の交流や事業の相互乗り入れが進展している。

【今後】・「食と農」や「スイーツ」関連のキーマンの発掘や、これらのキーマンとその他のキーマンの交流を促していく。

- ・特定の人への負担軽減を図るため、各プロジェクトの事務局や会計などの役割ができる人材を発掘、育成したい。

4. ブランドの推進

【現状】・地域ブランドの確立、推進につながる取組（商品のブランド化など）ができていない。25年3月にスイーツフェアを開催予定。

【今後】・25年度は新たに、農と飲食をつなぐ仕組みづくりの検討を進める。

《実施案》

①農と飲食とのビジネスに関わるモデル事業の実施

- ・地元産の農産品を扱いたい飲食店のニーズと農家をつなぎ、直接取引や八百屋・宅配業者などの流通業者を介した取引を進めるモデル事業に取り組む。（4月～6月頃）

②食のビジネスマッチング会の開催

- ・先進事例のセミナーや、農家・飲食店のプレゼンテーションにより、情報の共有を図る。
- ・上記モデル事業の終了後、課題を整理し、農家、飲食店、流通業者、消費者などによる座談会を実施し、仕組みの検討を行う。
- ・参加事業者同士で取引につながる商談タイムを設ける。